

学校経営推進費 評価報告書（最終）

1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立北かわち阜が丘高等学校
取り組む課題	生徒の学力の充実
評価指標	①授業アンケートにおける生徒の授業満足度（強い肯定）の向上 ②補習・講習への参加、家庭学習、資格取得などの生徒の学習意欲の向上 ③外部機関の客観的学力診断テストにおける学力の向上 ④希望進路実現率の向上 ・ 難関・中堅私立大学への進学者数の増加 ・ 就職試験（1次）の合格率向上
計画名	さつき「授業力向上」プロジェクト ～進路実現のための素養（考える力、学ぶ意欲）を育む～

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<p>1 学力向上と進路実現</p> <p>(1) 教科指導を充実させ、生徒の学力を向上させる。</p> <p>ア 学習に向かう意識を向上させるとともに、授業見学、校内研修、授業アンケート等により継続的な授業改善を図り、生徒の学力向上に結びつける。</p> <p>イ 「魅力的な授業・わかる授業」を確実なものとし、さらに一歩進んで「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざす。</p> <p>(2) 自学自習する力を育む。</p> <p>ア 家庭学習や補習・講習等の授業外学習に取り組む力を育成する。</p> <p>イ 読書活動を推進するとともに、様々な資格取得の機会を提供し、前向きに取り組む意欲を向上させる。</p> <p>(3) 進路指導の充実に取り組む。</p> <p>ア 3年間を見通した系統的・継続的な進路指導を実践し、多様な進路希望に丁寧に対応する。</p> <p>イ 模擬試験や学びの基礎診断等を活用し、生徒の学力等の推移を把握して、時機を捉えた進路指導を行う。</p> <p>授業満足度：R5年度 85%以上維持（R2 86.6% R3 90.5%）[強い満足度 60%] 授業以外の学習1時間以上：R5年度には60%をめざす（R2 28.9% R3 32%） 進路指導に対する肯定率：R5年度には85%以上を維持（R2 88.6% R3 90.6%） [学力診断テストにおける学力評価（2年次のCゾーン以上の割合）R2 55%→R3 79%] [難関・中堅私立大学への進学者数 R3 16名]</p>
事業目標	<p>ICT 機器を随時使用できる環境を普通教室に整備し、全教員が活用し授業の効率化を図るとともに、生徒同士の対話の時間や自身の考えをまとめ、発表・共有する時間を確保する等、生徒の主体的な活動を取り入れた「魅力的な授業・わかる授業」を実施する。</p> <p>「授業力向上委員会」を組織し、ICT 機器を活用した研究授業や、教材開発・指導法の研究等、学校全体で「授業改善」を図ることにより、学校全体の授業の質を高め、より「主体的・対話的で深い学び」を実現する。</p> <p>また、大学の出前講座や体験授業への参加、他の府立高校の課題研究発表会等への参加を促進し、卒業後の進路で活動するために必要な素養を知る機会を設ける。また、資格試験等への取組を推進し、資格取得による達成感の醸成、次に繋がる学習意欲の醸成を図る。ま</p>

	た、授業改善による質の高い授業を提供することで、生徒の授業満足度や学習意欲の向上を図る。これらの取組により、結果として、進路希望への着実な接続に結びつける。
整備した設備・物品	超短焦点プロジェクター 1台（HR教室） 壁設置型ロールスクリーン 14台 電源及び接続用ケーブル 14教室分
取組みの主な実施者	首席：小林 弘幸
本年度の取組内容	（1学期） 各教科での授業内容の検討、教育実習期間を活用した授業見学、授業実践全体研修「主体的・対話的で深い学びへの取組み3」による学校全体の情報共有 （夏期休暇） 授業アンケート結果の分析、1学期の評価、2学期に向けての検討 （2学期） 学校全体・全教員による授業実践・相互授業見学 授業力向上委員会が中心となり、校内研究授業・研究協議の実施 （3学期） 授業アンケート結果など成果の検証、3年間の取組みの評価、次の3年間の取組み検討
成果の検証方法と評価指標	① 授業アンケートにおける生徒の授業満足度（強い肯定）の向上 ② 補習・講習への参加、家庭学習、資格取得などの生徒の学習意欲の向上 ③ 外部機関の客観的学力診断テストにおける学力の向上 ④ 希望進路実現率の向上 ・ 難関・中堅私立大学への進学者数の増加 ・ 就職試験（1次）の合格率向上
自己評価	① 授業アンケートにおける生徒の授業満足度（強い肯定）の向上 ・ 各科目の興味関心の醸成や知識・技能の習得感等の生徒意識の肯定的回答は、前期 86.8%、後期 87.8%（前年度の前期 82.3%、後期 84.9%）と前年度より3ポイント増（指定3年間で6ポイント上昇） ・ 教材活用の評価は、前期 3.45、後期 3.47 平均 3.46（R2平均：3.31、R3平均 3.36）と年々高い評価を得ており、ICT機器活用した授業改善が進行した。……………（◎） ②-1 補習・講習への参加 ・ 補習・講習は、延べ2,695人（補習1,848人・講習847人）に実施した。 また、自宅待機を余儀なくされた生徒にはオンライン授業を適宜開催し、授業に遅れないよう対応するとともに、オンライン課題の配信や実力考査実施後の振返り・解説動画を配信する等、学習保障も取り組むことができた。……………（○） ②-2 家庭学習時間 ・ 家庭学習時間が授業以外の学習1時間以上 29%（R2：28.9%、R3：32%） 指定の3年間で大きな改善は得られなかったが、電子掲示板への課題・宿題配信等、クラウドストレージを利用した成果物（プレゼン発表資料等）を共有し、お互いが追記する等、協働作業を行う基盤を確立することができた。……………（○） ③ 外部機関の客観的学力診断テストにおける学力の向上 1年生：業者テスト（3学期）学習到達「Cゾーン以上」185人（R2：125人、R3：122人） 2年生：業者テスト（3学期）学習到達「Cゾーン以上」97人（R2：68人、R3：104人） ・ 入学直後のCゾーン人数をピークとして減少傾向にあるが、減少率に歯止めをかけるために、②-2同様、進路目標の設定や総合探究等の取組を行ってきた。 日々の授業において、探究発表を取り入れる等、更なる授業改善が必要であるが、1年3学期時点では、学年の8割近くがCゾーン以上を維持することができた。…（○） ④ 希望進路実現率の向上 ・ 難関・中堅私立大学への進学者数の増加

	<p>R4 : 6名 (R2 : 12人、R3 : 13人) 直近3か年で、合格延べ数は大幅に増加しているが、近隣大学への志望、AO入試、学校推薦型入試による受験志向が強い。…… (△)</p> <p>・就職試験 (1次) の合格率向上 1次合格率 91% (R2 : 55%、R3 : 100%)。2年次3学期に就職希望者対象のガイダンスを実施し、早期に指導を始め、企業担当者の指摘事項を踏まえた指導 (志望理由の深堀り、一般教養「数的処理」分野の強化等) により、高い合格率を維持できた。… (○)</p>
<p>事業のまとめ</p>	<p>実技系の教科を除き、65%の教員がプロジェクトを活用した授業展開を行っており、板書の省力化、資料提示による思考・判断を問う授業等、授業展開に工夫が見られるようになった。端末利用が苦手な教員も教材提示を工夫し、効率のよい授業展開をする等、授業アンケートにおける教材活用の項目は、年々高い評価を更新している状況である。</p> <p>また、コロナ禍の3年間で、Web アンケート機能を用いて知識を問うテストの実施・生徒への回答共有等、ICT を活用した授業展開が定着してきた。</p> <p>本事業を通じて、校内環境整備を進めることができた。引続き、各授業において探究・発表、質疑・応答等、主体的で対話的な深い学びを実践できるよう教員のスキルアップに繋がられるよう、組織的な授業改善に努めてまいります。</p>